

琉球の歴史

学校法人アミークス国際学園
沖縄アミークスインターナショナル小学校 6年生
運天 夢雅

「ええ。うそ。」

ぼくが三年生のとき、社会科見学で座喜味城のグループと勝連城のグループに分かれて、それぞれの城に行った時のことです。ぼくは座喜味城に行きました。着いたとき、ぼくは、座喜味城という城が建っていると思っていたので、城が建ってないと分かったとき、とてもショックを受けたことを覚えています。

四年生の冬休み、ぼくはお母さんといっしょに首里城に行きました。そのとき、ぼくはお母さんに、

「なんで首里城は再現されているのに、座喜味城は再現されていないの。」

と聞くと、

「城の設計図がないからじゃないの。」

と返って来ました。

ぼくは、もし座喜味城や勝連城の設計図があるなら、建て直してみると良いんじゃないかと思います。もし座喜味城や勝連城を建て直してウェブで世界に公開すれば、もしかすると、そこに行こうと観光客が殺到するかもしれません。そしてそこに琉球ガラス作り体験や、陶芸体験などの体験プログラムを加えれば、外国人にも本土の人にも、そしてうちなーんちゅにも楽しんでもらえるんじゃないかと思うのです。

例えば、ぼくが以前体験したように、外国人が座喜味城に行き、見られると期待していた城が無かったとしたら、もう沖縄に来たくないと思ってしまふかもしれません。そこで、もし首里城以外の城を建て直せば、子ども達も楽しく沖縄の歴史を勉強できるし、琉球王国のときの城の形も見ることで、おとなも子どもも楽しめると思います。

今、ぼく達六年生は社会の授業で『日本の歴史』を勉強しています。もしも社会科見学で城を見に行くとしたら、城の形が分からずに勉強するより、実際に城を見ながら勉強するほうがもっと勉強になるでしょう。さらに、外観だけではなく、首里城のように中でも当時の様子を再現できればそのときのふんいきも楽しめる上に、外観だけを見るよりもっと勉強になるはずですよ。

最後に、もし沖縄の城を全て再現完成させれば、観光客が大幅に増えていき、『日本一観光客の来る都道府県ランキング』で一位になれるのも夢ではないかもしれません。

この文章を書いているうちに、ぼくの頭の中では不思議と座喜味城のイメー

ジがうかび、ふくらんできています。早く、ぼくが今想像している城の形の予想が当たっているかを知りたいです。